

別紙様式4

プラン名：弓浜地区白ねぎ産地の生産振興プラン
『白ねぎ産地西日本一位を目指す祭のスタート』

令和5年12月



プラン策定者
米子市・境港市(共同策定)

1. プラン策定主体名 米子市・境港市
2. 区分(対象地区) 米子市及び境港市(弓浜地区)
3. 対象地区の現状

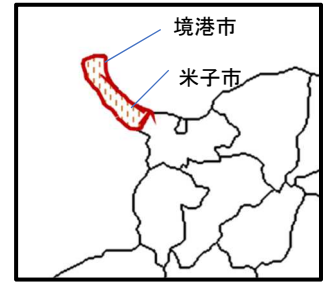


図: 対象エリアである弓浜地区

(1) 米子市及び境港市(弓浜地区)の白ねぎ産地

米子市及び境港市は、白ねぎを特産品として位置づけ、農業の振興を図っています。

しかし、過疎高齢化による生産力の衰退が大きな問題となっており、10年前と比較して生産者戸数は32%減少(△118戸)しています。

一方で、栽培面積は10年前から2%の減少に留まっており、1戸あたりの面積が拡大しており、規模拡大が可能な力強い生産者が現れていることが考えられます。

[表1] JA鳥取西部白ねぎ部会(県西部全体)及び弓浜地区の白ねぎ生産者及び栽培面積の減少

区分	H24 (10年前)	H29 (5年前)	R2 (2年前)	R3 (1年前)	R4 (現状)	10年前対比 (R4/H24)
生産者(戸)	734	585	538	531	497	68%
うち弓浜地区	370	286	261	269	252	68%
栽培面積(ha)	254	265	270	252	256	101%
うち弓浜地区	147	163	165	145	144	98%
販売額(千円)	2,266,504	2,170,206	2,161,491	2,029,973	1,990,756	88%
うち弓浜地区	1,449,426	1,479,020	1,481,258	1,377,380	1,389,896	96%

出典: JA鳥取西部まとめ

平成24年度から26年度までの3年間、『弓浜農業未来づくりプロジェクト事業』による弓浜地区の白ねぎ産地振興対策を実施しており、主に「担い手の経営規模拡大」、「農地の流動化」等に取り組みました。

併せて、鳥取西部農業協同組合(以下、「JA鳥取西部」という。)は、平成24年度にがんばる地域プラン『2大特産野菜の産地力増強プラン』を策定し、弓浜地区を除く県西部の広域的な産地振興を平成25年度から29年度まで5年間実施してきました。

主に「堆肥システムの構築」、「夏場対策の散水設備の整備」、「機械・施設の整備」等に取り組みました。

これらの取組の成果として、JA鳥取西部の管内の白ねぎの栽培面積は計画当初より増加し、新規栽培者も計画以上に確保することができました。

[表2] 過去の関連する地域プラン『2大特産野菜の産地力増強プラン』の目標達成状況

区分	実績						目標 H29	達成率
	H25	H26	H27	H28	H29	計		
面積(ha)	260	262	266	263	265	/	300	88%
うち弓浜	155	156	160	163	165		170	97%
うち弓浜以外	106	107	106	100	100		130	77%
出荷量(cs)	1,963,698	2,042,461	2,156,272	1,916,705	1,798,096	/	250万	72%
うち弓浜	1,257,409	1,353,443	1,410,374	1,245,433	1,192,097			
うち弓浜以外	706,289	689,018	671,272	671,272	605,999			
新規就農者(人)	7	10	11	7	6	41	/	
うち弓浜	2	6	2	3	1	14		
うち弓浜以外	5	4	9	4	5	27		

JA鳥取西部は、管内9市町村で白ねぎが栽培されており、約10年前に実施した『弓浜農業未来づくりプロジェクト事業』と『2大特産野菜の産地力増強プラン』と同様に、まずは弓浜地区でモデルとなる取組を実施し、成果を検証しながら、今後、他地区へ波及効果が及ぶことを狙いとてしています。

(2) 米子市及び境港市の農業施策

米子市及び境港市ともに、以下の農業施策に取り組み、地域農業の課題解決を図っています。

- ①「地域計画」策定を進め、地域の人と農地の話し合いを推進
- ②新規就農者希望者に対する農業体験会の案内や就農に係る機械導入や生活費等の支援
- ③担い手確保に向けた規模拡大や経営発展等に対する各種支援
- ④特産品の生産振興のための品種試験や集出荷施設等の整備支援

※境港市では令和3年度にがんばる地域プラン「弓浜干拓地の営農基盤強化(グレードアップ)プラン」を策定し、令和8年度を目標年として取組を行っている。本プランと弓浜干拓地について、対象エリアが重複している。

4. 対象地区の課題

令和元年からはじまった新型コロナウイルス感染拡大の影響や、気象変動による猛暑日、暖冬、集中豪雨や豪雪等により、市場価格の低下や収量・品質への影響を大きく受けており、更には世界情勢による物価高が追い打ちをかけ、産地には厳しい逆風となっています。

このような状況の中、「担い手確保」、「農地の効率利用」、「生産振興対策」、「販売戦略」を柱として産地振興を図っていく必要があり、以下に産地の課題をとりまとめました。

(1) 担い手・新規就農者確保の取組

① 新規就農者の確保

弓浜地区では、過疎高齢化による生産力の低下が大きな問題であり、10年前と比べて白ねぎ生産者戸数が32%減少しており、今後、団塊の世代の離農などにより産地の縮小が加速して進むことが予想され、今後10年位の間、急激な生産者構造の変化への対応が求められます。

一方で、近年は年間4～6人の新規就農者が参入し、若手組織による勉強会も行われています。

国内経済全体で賃上げが進む中、他産業従事者並みの所得を確保し、白ねぎ生産者として安定した経営が可能な環境づくりが必要です。

令和5年度に県内初の取組として、JAの遊休施設を改修し作業場を整備しました。これらの動きを産地全体に拡大させるなど取組を充実させて、新規就農者の早期経営安定を図っていきます。

【白ねぎの新規就農者数(弓浜地区)の推移】

年度	H30	R元	R2	R3	R4	計
新規就農者	5人	6人	6人	4人	1人	22人
認定新規就農者	5人	4人	4人	3人	1人	17人
その他(親元就農等)	—	2人	2人	1人	—	5人

※R4は新規就農者事業の制度の切り替わりのため、新規就農者は少なかった。弓浜地区全体(252戸)の約9%を占める



写真1: 若手組織による白ねぎ指導会の様子



写真2: JA 遊休施設を改修し出荷調製作業場を整備

②相談体制の強化

白ねぎを希望する就農相談者が一定数以上いますが、県全体では直近3年間の就農相談者数に占める白ねぎ希望者の割合が減少しています。

就農相談者が白ねぎへ就農しやすくなるよう、相談・研修～就農～経営安定までを丁寧にサポートできる体制づくりが必要です。

(2)農地利用の効率化・維持管理

③遊休農地対策

弓浜地区では農地全体の約3割が遊休農地となっています。

白ねぎ生産においては、周辺に雑草が繁茂することで病虫害の温床となり白ねぎ栽培に悪影響を及ぼすことから、遊休農地の解消に繋がる取組が必要です。これにより、防除・除草回数の削減にも繋がります。

また、新規就農者等は、優良農地の確保に苦慮するケースもあることから、弓浜地区内(余子地区、富益地区)では遊休農地等を整備して営農の効率化を図る動きもあり、担い手の農地集約が可能な環境づくりが必要です。

【弓浜地区における遊休農地面積割合】

遊休農地面積割合	割合	遊休農地	農地全体
米子市(弓浜地区)	23.1%	201ha	867ha
境港市	32.2%	215ha	667ha
計	27.1%	416ha	1,534ha

出展:農地台帳、荒廃農地調査(米子市はR3年度、境港市はR2年度)

④農地の排水対策及び輪作体系の確立と普及

白ねぎの栽培環境の向上や連作障害回避、飛砂対策には、農地の排水対策や輪作体系の確立が重要です。

地域によっては、地下水位が高い(シケ場)ことから通常の排水対策が有効に機能しない箇所もあり、暗渠設置、栽培方法やほ場の変更なども含めた対応が求められます。

また、緑肥をはじめとする白ねぎの生産性向上を目的とした輪作体系の確立も必要です。

(3)核となる品目の生産振興

⑤気象災害及び主要病害による被害対策

近年の地球温暖化等により、大雨や台風、大雪の被害が多く、災害規格も直近5年間で4回適用するなど、販売面でも影響を及ぼしています。

栽培面では、夏季の高温による発芽不良等のトラブル相談が多くなっています。県西部農業改良普及所では「白ねぎの育苗管理マニュアル」をわかりやすい動画で提供するなど対応をしてきましたが、資材や管理方法等の革新的な技術対応も求められています。

また、白ねぎの主要病害でもある「ネギ黒腐(くろぐされ)菌核病」や「ネギ軟腐病」も単位当たり収量の制限要素となっています。特に、市場出荷後に腐敗等が確認される「葉トロケ」によるクレームも多くなっています。

また、ネギ黒腐菌核病は平成26年頃より徐々に発生地域が拡大し、土壌消毒や連作防止等の対策を行ってきたことから、近年は発生が収束していますが、一度発生すると減収に繋がることから、発生歴のあるほ場は貸借の場面で敬遠される実態もあり、対策の徹底が重要です。

⑥品質向上

経営の大規模化が進む中、産地として品質基準の見直しを繰り返してきました。一方で、他産地も品質向上の努力を積み重ねてきており、市場での評価に差がなくなってきました。

一つの要因として、一人当たりの栽培面積が増加しており、管理が不十分になることで、品質が低下していることが考えられます。(検査不適率は2022年で1.6%と増えている。)

令和2年からは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、指導会が出来ない状況も続いたことから、今後は指導体制を強化し、品質向上と市場評価に繋がる取組を行う必要があります。

⑦生産コストの低減

世界情勢等の影響により、令和3年からの資材価格が徐々に高騰し、令和5年産の肥料価格は令和3年産と比較して約1.4倍となっています。

この他にも、農薬、諸材料費、機械等の価格も上がっており、経費削減の取組などが必要です。

【10a 当たりの肥料価格高騰の影響（令和3年と5年の比較）】

作型	R5(円)	R3(円)	対比(R5/R3)
春ねぎ	53,748	39,226	137%
夏ねぎ	42,135	30,100	140%
秋冬ねぎ	47,710	33,750	141%

⑧収穫・調製作業の効率化による規模拡大と反収向上

白ねぎは収穫・調製に多大な作業時間を要し、全工程のうち約7割を占めています。

出荷ピーク時に収穫・調製作業が遅れることで、品質低下にも繋がり、生産者の所得向上に結びつきません。

このような状況から、産地では作業受託体制の整備を要望する声が上がっており、体制整備に向けた検討が必要です。

また、機械化による作業の効率化も可能であり、共同利用など過剰投資とならない導入の仕組みづくりを検討し、産地の規模拡大や反収向上を実現し、所得向上に繋がります。

【白ねぎ作業別の労働時間(10a 当たり)】

苗準備～育苗	定植、土寄せ等	防除・除草	収穫・調製	出荷・片付け	合計
39.0 時間 (8%)	46.5 時間 (9%)	42.0 時間 (8%)	356.3 時間 (68%)	38.0 時間 (7%)	521.8 時間 —

注1) 表中の()内は作業全体の労働時間に対する作業別労働時間の割合

注2) 出典:鳥取県経営指導の手引き(H30)より、「白ねぎ・砂地・普通栽培様式」

⑨共同選果場の効率稼働

共同選果場の運営についても効率化による健全運営が課題です。

現在は、運送会社へ業務委託をして作業員を確保、出荷ピーク時を予測して作業員を配置していますが、予約数量と実際の持ち込み数量が乖離している状況が発生しています。

また、出荷ピーク時(4月、11月)は、作業能力・品質確保上の理由で入庫制限をかけており、特に高温時の品質確保にかかせないストックヤードが不足していることから選果場運営に影響しています。これらにより、年間雇用を前提とした人材確保が困難となる状況が生じています。

弓浜地区の選果場利用者は約50戸(生産者戸数の約1/5を占める)に対して聞き取り調査を行うなどし、入庫数量が少ない時期の出荷量が増えるよう産地全体での作型シフトと利用率の平準化が必要です。

(4) 販売促進及びブランド化に係る取組

販売環境においては国内他産地との競争による影響を受けやすいため、当産地の白ねぎの差別化を図り、安定価格で出荷することが重要です。

平成13年に組織した「JA鳥取西部白ねぎ料理研究会」やGI登録を目指すブランドねぎ「伯州美人」などを活かし、さらには、流通業者や消費者との交流やPR宣伝等によりブランド産地としての地位向上に努めます。

(5) 意識調査の実施と結果概要

【アンケート結果の概要】 ※調査期間: 令和5年6月22日～7月10日

【回収率 78%(配布 230 戸、提出 180 戸)】 ※1/15 時点

1. 《平均年齢》 経営者の平均年齢は63.8歳
2. 《経営形態》 「営農人数1～2人」が全体の77% 「雇用している」25% ※後継者ありを含めると38%
3. 《営農継続》 「5年以内にやめる」29%、「6～10年」28%、「11年以上」は33%
4. 《後継者》 後継者がいる経営体は27戸。
※既に就農している(17戸) ⇒ 今後、就農予定(11名)
5. 《産地面積》 全ての作型で5年後は1～4%減、10年後は9～11%減(※今後の就農者を加味していない)
6. 《難しい作型》 「夏ねぎ」72% ※[理由]大雨・排水対策(圧倒的に多い)、育苗、病害対策等
7. 《研修受入》 可能7%(12戸)、条件が合えば可能9%(16戸)。
8. 《貸す・譲る》 OK(17戸) (皮剥ぎ機、コンプレッサー、収穫機、管理機、農地等) ※金額次第という回答もあり
9. 《譲り受けたい》 欲しい(42戸) (ハウス、トラクター、収穫機、皮剥ぎ機、農地等) ※研修生のためという回答もあり
10. 《今後の課題》 多い順に「病虫害」83戸、「受託体制」55戸、「負担軽減」40戸、「共選体制」34戸、「スマート」34戸、「収穫機共同利用」30戸、「最終土寄せ」31戸。

5. プランの概要

【基本方針】

農業の産地振興の在り方は転換期を迎えており、産地が主体となって信じる羅針盤を模索しつつ前に進まなければなりません。この激変する環境を乗り越えるため、産地では人材育成も視野に入れた取組を行い、力強くたくましい産地となることを目指します。

(1)弓浜地区白ねぎ販売額が10年前並となるようV字回復を目指します。

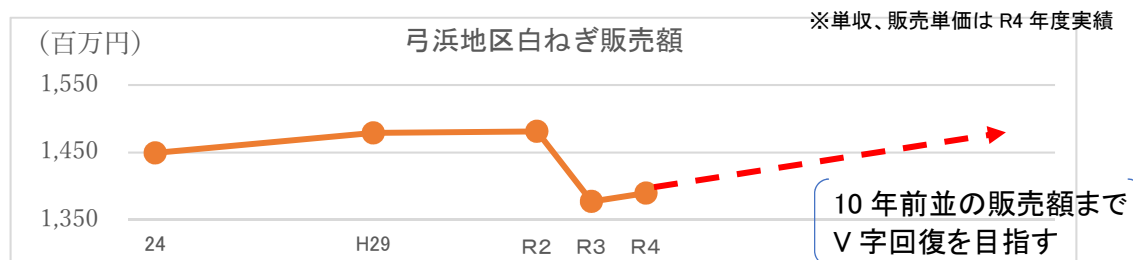
(2)実現に向け、産地の「生産者数」「栽培面積」を減らさない、「単収(ケース/10a)」「単価(円/ケース)」を伸ばす取組を実施します。

(3)重点4課題(「担い手・新規就農者の確保」、「農地利用の効率化」、「収益性の向上」、「ブランド力の向上」)に対し、産地・行政が一丸となって課題解決に向けて挑戦します。

【資料1】白ねぎ栽培スケジュール

《目標》

区分	目標項目	現状(R5)	目標(R11)
生産者数減らさない	新規就農者の確保	—	+20名(累計)
栽培面積減らさない	1ha以上生産者	32戸	40戸
単収伸ばす	単収の増加	869 ケース/10a	900 ケース/10a
単価伸ばす	販売単価の増加	1,126 円/ケース	1,250 円/ケース



《参考》西日本一位の産地である大分県の白ねぎデータ

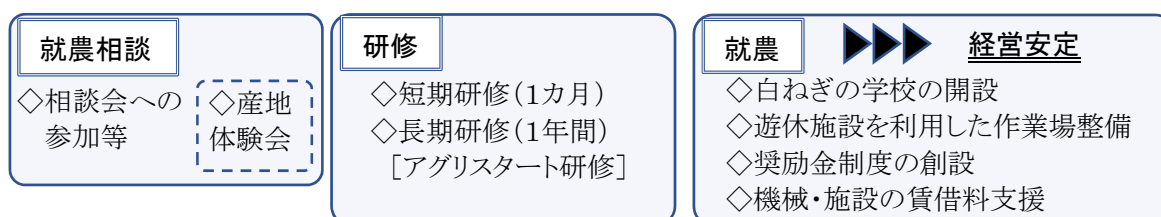
大分県 : 作付面積 584ha 経営体 654 戸
うち豊後高田市 : 作付面積 379ha 経営体 131 戸 (西日本最大の産地)
産出額(白ねぎ) 約 35 億円

出展: 農林水産省わがマチ。わがムラ市町村の姿より、全農グループへの聞き取り

【各区分毎の計画概要】

(1)担い手・新規就農者の確保の取組

- ①新規就農サポーターの設置による相談～経営安定までの一貫したサポート体制の構築
- ②産地PRツールの作成や就農相談会等への参加
- ③産地体験会や短期研修、白ねぎの学校の実施による参入しやすい環境づくり
- ④奨励金制度等の創設による早期経営安定支援



◇新規就農サポーターによる一貫的な支援・サポート

(2) 農地利用の効率化・維持管理に関する取組

- ① 小規模で機動的な遊休農地の解消 ～ 大規模な基盤整備による白ねぎほ場の拡大
- ② 緑肥等を活用した輪作体系の確立と普及
- ③ バックホーやポンプを利用した排水対策の強化、ほ場の均平化



一体的に取り組むことにより農地利用の効率化・遊休農地の解消に寄与

(3) 生産振興に関する取組〔収益性の向上〕

- ① 栽培技術の向上及び重点防除病害への対策強化
 - ② 品質向上対策 (調製方法、予冷库整備 等)
 - ③ 栽培実証試験・低コスト化試験等の取組 (土壌消毒の有用性、低コスト肥料 等)
 - ④ 収穫・調製作業の効率化 (機械化、軽労化、スマート化 等)
 - ⑤ 収穫・調製作業の作業受委託体制の確立
 - ⑥ 共選場のDX化 (電子化) と稼働期間・時間の見直し 等
 - ⑦ 高齢生産者の営農継続支援及び人的資源の活用
- } 収量・品質の向上
} 作業効率化

<p>① 夏場 (高温) 対策 収量の増加</p> <p>◇ 栽培管理マニュアルによる栽培技術向上 ◇ 重点防除病害 (黒腐菌核病、軟腐病等) に対する防除対策</p>	<p>④ 収穫・調製作業の効率化・軽労化</p> <p>◇ 収穫機の導入 (機械化) ◇ 調製機の機能向上 ◇ スマート農機の導入 ◇ 収穫時の台車活用</p> <p style="text-align: right;">効率化実現による規模拡大</p> <p style="text-align: right;">営農継続</p>
<p>② 品質向上対策 単価向上</p> <p>◇ 個選調製場の低温環境の整備 (エアコン、予冷库等の整備) ◇ 共選場ストックヤード (低温室) の増設</p>	<p>⑤ 収穫・調製作業の作業受委託体制</p> <p>◇ 収穫の受託体制 機械化による大規模農家など ◇ 調製の受託体制、高齢の農家、福祉作業所など</p> <p style="text-align: right;">収量の増加 所得向上</p>
<p>③ 実証試験・低コスト化試験 収量の増加 コスト削減</p> <p>《取組例》 ◇ 土壌消毒 (新たな資材) ◇ 肥料・農薬 (低コスト資材)</p>	<p>⑥ 共選場のDX化 (電子化) と稼働期間等の見直し 収量の増加</p> <p>《取組例》 ◇ アプリを活用した予約体制の導入 ◇ 共選場の稼働期間・時間を見直し ⇒ 委託先の安定的な雇用確保</p>
<p>⑦ 高齢生産者の営農継続支援・人的資源活用</p>	

収量の増加、単価向上と軽労化やコスト削減により持続可能な白ねぎ栽培環境が整う

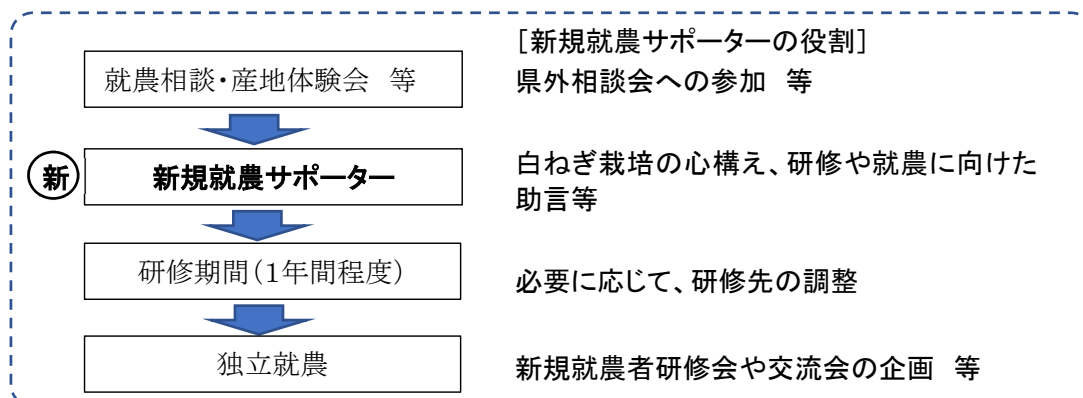
(4) 販売、産地PR及びブランド力向上の取組

- ① 端境期の出荷量を増やすための価格補填 (例: 夏ねぎ出荷 (5/20~))
- ② 全国ねぎサミットへの出展・出品
- ③ 食農教育
- ④ 白ねぎ魅力発信 (YouTube動画配信、関西圏の百貨店への出展、地元イベント出展 等)

6. プランの具体的内容

(1)担い手・新規就農者の確保の取組

《就農までの流れ(白ねぎ弓浜地区(簡易版))》



【資料2】弓浜地区における白ねぎ生産者の受入体制(案)

①新規就農サポーターの設置

- ・JA鳥取西部白ねぎ生産部会弓浜地区部会に、新規就農サポーターを設置し、就農相談から就農後まで一貫したサポート体制を構築する。

<新規就農サポーターの役割>

- i. 就農希望者へのサポート(就農相談会への参加、就農支援グッズの企画)
- ii. 研修生へのサポート(研修状況の把握、就農地や機械等のマッチング情報の収集)
- iii. 新規就農者へのサポート(研修会の企画・運営(ほ場巡回、座学 等)、交流会の開催)

【資料3】弓浜白ねぎ部会「新規就農サポーター」の取組

②新規就農者確保に向けた産地PRツールの作成(チラシ、動画 等)、就農相談会への出展

- ・産地が求める人材を明確化し、目標所得や作業時間等が一目でわかるPR素材を作成する。
- ・新規就農者の確保に向けて、生産者と共に新規就農相談会へ出展する。

【資料4】産地PRの取組

③産地体験会の開催

- ・気軽に白ねぎ産地の状況を知ってもらう取組として、産地体験会を開催する。(半日～1日)

④「弓浜白ねぎ版」短期研修受入制度

- ・農業体験が全くない就農希望者等を対象に、1週間～1か月程度で、親方の元で研修を受けることが可能な研修制度を設ける。

⑤「白ねぎの学校」を開設

- ・新規就農者向けに、座学や先輩農業者を講師としたゼミを行い、栽培から地域活動まで幅広く学べる場として「白ねぎの学校」を開設する。

【資料5】弓浜地区部会「白ねぎの学校」の設立

⑥新規就農者への負担軽減

(i)弓浜白ねぎ奨励金制度

- ・研修期間及び就農直後の支援として、認定新規就農者等に対して就農後(5年後)に目標出荷数量の達成を前提とした奨励金制度を設ける。

【資料6】弓浜白ねぎ奨励金制度（調整中）

(ii) 機械・施設の賃借料支援

・新規就農者の就農初期の経費を抑えることを目的に、賃借料の支援を行う。

⑦遊休施設を活用した新規就農者の共同作業場の整備

・JA等の地域の遊休施設を改修し、白ねぎの作業場として整備し、新規就農者に利用してもらう。

【目標】新規就農者の確保(累計)

現状 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標 R11年度
—	+2名	+5名	+8名	+11名	+15名	+20名

(2) 農地利用の効率化・維持管理に関する取組

①遊休農地解消等による白ねぎほ場の整備

(i) 伐根整地自力施工(小規模)の支援

・遊休農地の雑草除去や伐根等を行い、1～3ha程度の小規模なほ場整備を機動的に実施。

(ii) 白ねぎ団地(大規模)の候補地選定[モデル取組の富益基盤整備事業のフォロー]

・R4～R7年度に整備中の富益地区における機構関連基盤整備事業(約12ha)について、入植を希望する白ねぎ農家のフォローを実施。

・効果を検証しながら、新たな「スーパー白ねぎモデル団地」の候補地選定も進める。

【資料7】弓浜地区における遊休農地解消による農地整備（白ねぎ等）の状況

②緑肥を活用した輪作体系の仕組みづくり

【資料8】緑肥を活用した輪作体系の仕組みづくり

③排水対策(バックホーを利用、排水ポンプを利用)及びほ場均平化

・バックホーによる明渠づくり。作業受託体制の構築を検討。

・大雨時の強制排水を実施するために排水ポンプを利用する。

・すり鉢状になっているほ場をレーザーレベラーやトラクターアタッチメント等で均平化する。

【資料9】バックホーやポンプを利用した排水対策

④多面的機能支払組織等の設立による遊休農地解消の取組

・生産者やJA、行政等がセイタカアワダチソウの除草など地域で取り組めることから着手して、遊休農地の解消に取り組む。

・多面的機能支払組織等の活用方法も模索しながら、検討を進める。

【目標】経営面積1ha以上の生産者

現状 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標 R11年度
32戸	33戸	34戸	35戸	36戸	38戸	40戸

(3)生産振興に関する取組

①収量・品質向上対策

(i)重点防除病害への対策(軟腐病、葉トロケ症状、黒腐菌核病)

- ・重点防除病害に対する土壌消毒防除を実施することで反収向上に繋がることから、費用対効果を実証及び啓発するためにモデル期間を設けるなどし、新たにほ場を借りて栽培する土壌消毒実施者へ薬剤助成を実施。

(ii)栽培実証試験・低コスト化試験等の取組(土壌消毒の有用性、低コスト肥料 等)と普及

- ・有効な土壌消毒資材、安価な代替肥料、出荷規格の見直しによる出荷用段ボールの削減など、資材価格が高騰する中で経営コストを下げながら、収量、品質を維持する取組を実施。

(iii)品質向上対策(調製方法、予冷库整備 等)

- ・収穫後、箱詰めまでの間で腐れの発生リスクを減らすため、低温保管が可能な環境を整備。
〔共同選果〕ストックヤードの整備
〔個人選果〕予冷库や冷却装置等の整備
- 【資料10】収量・品質向上に係る取組**

(IV)収量・品質の高位平準化のための現地指導会等の強化

- ・指導会(生産者、JA 営農センター、県農業改良普及所 等)を現地で開催し、実際のは場を見ながら技術について議論する機会を増やし、収量・品質の向上を目指す。

②収穫機・調製作業に係る効率化

(i)収穫機等の共同利用体制の整備

- ・白ねぎ収穫作業の効率化を実現するために収穫機を導入する。(モデル:富益地区)
- ・これまで生産規模等の制限で個人導入に至らなかった少人数の生産者同士で共同利用等により導入が可能となるような仕組みづくりを促す。

(ii)収穫・調製作業に係る軽労化(収穫台車の活用 等)と機能向上(皮剥ぎ機 等)

- ・収穫後にコモに包むまでの間、台車の上で行うことで足腰への負担が少なく、軽労化を実現できることから、収穫用の台車を導入する。
- ・多くの時間を要する収穫・調製作業の機械の能力を向上させる。

(iii)収穫・調製作業の作業受委託体制の確立

- ・自力での収穫・調製が困難な農家に配慮し、作業受委託体制を整備する。
- ・共選場の受入が困難な場合、福祉作業所などへの受託も視野に、県内の農福連携モデルの確立に繋がることもあり検討を進める。

【資料11】収穫・調製作業に係る効率化

③共選場のDX化(電子化)及び稼働期間等の見直し

- ・共選場の申込を紙ベースから電子化へと移行し、利用者の利便性を高める。
- ・出荷ピーク時に共選場の出荷が制限されることがあり、出荷量の増加に繋げるため、稼働体制等を見直す。

④ベテラン生産者への支援及び機械等マッチング体制づくり「白ねぎバトンタッチ制度」

- ・JA鳥取西部弓浜営農センターを事務局とし、中古農機具等のマッチング体制を構築。
- ・「白ねぎバトンタッチ制度」を創設し、補助事業により機械を導入する場合、リタイアの際には自身の農機具等を営農センターへ情報提供し、マッチング登録することを条件とする。

【資料12】白ねぎバトンタッチ制度

⑤出荷規格の見直しを含めたコスト削減

- ・2024物流問題やパレットサイズ標準化等への対応、及び猛暑等の影響への対応に向けた出荷規格の見直しを検討していく。

【目標】単収の増加

現状 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標 R11年度
869cs/10a	870cs/10a	875cs/10a	880cs/10a	885cs/10a	890cs/10a	900cs/10a

(4)販売促進及びブランド化の取組

①端境期に出荷量を増やすための価格補填（例：対象期間5/20～5/24）

- ・夏ねぎ出荷、特にトンネル栽培の時期への出荷量を増やすため、期間限定(5/20～24)の約5日間に夏ねぎを出荷した場合、価格補填を行う。（※行政機関の補助はなし）

②『全国ねぎサミット』への出展

- ・全国のねぎ産地が一堂に会する全国ねぎサミットへ出展する。

③食農教育

- ・地元の小学校給食への食材提供、食育を通して白ねぎが地元の特産品だと知ってもらう。
- ・収穫体験、調製作業体験、農業体験を通して、地元の子供たちに白ねぎの栽培や知識を深めてもらい、農業や白ねぎへの関心を高める。
- ・生産者と地元小学校の交流により、地域のコミュニティを強化する。

④白ねぎ魅力発信

- ・SNSを通して白ねぎレシピ動画や栽培動画の発信を実施。
- ・消費地での試食宣伝活動やノベルティグッズの提供により当産地への理解を深めてもらう

⑤GI登録申請(伯州美人)

- ・農林水産省と登録申請に向けた協議を行っているところ。

⑥先進地視察

- ・産地振興の優良事例を学ぶことを目的とした先進地視察を行う。

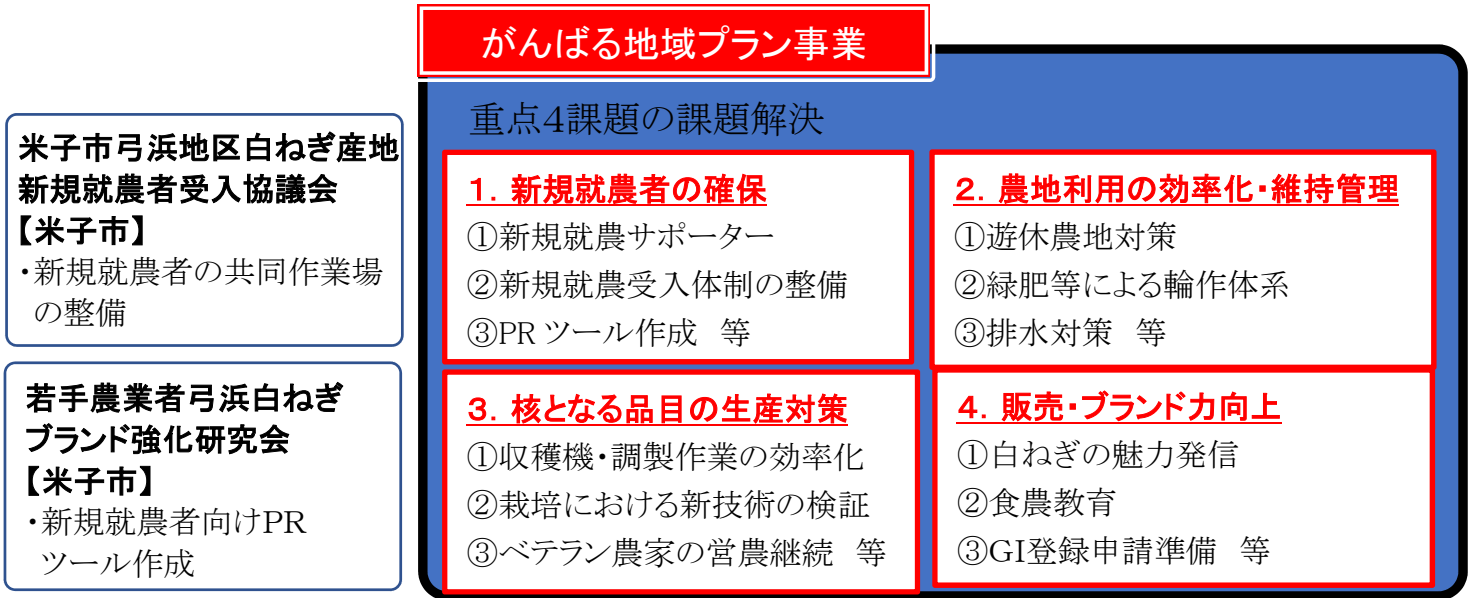
【目標】単価(円/ケース)

現状 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標 R11年度
1,126	1,130	1,150	1,170	1,200	1,230	1,250

7. プランの実施体制

白ねぎ産地西日本一位を目指す

モデル的な取組は他のエリアにも横展開



課題解決に向けて連携して取組を実施

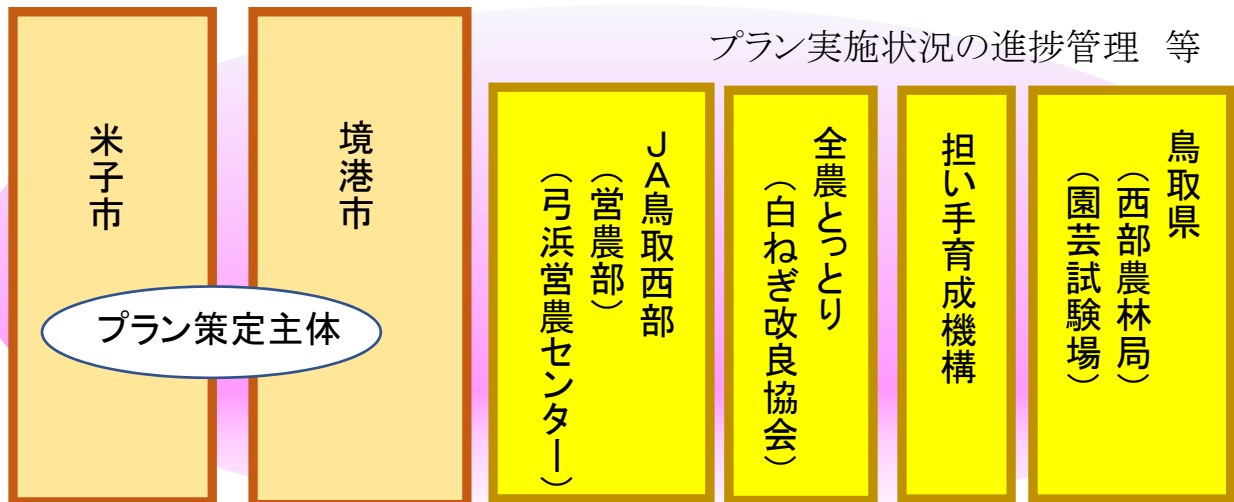
がんばる地域プラン策定委員会【米子市・境港市】

JA鳥取西部白ねぎ部会弓浜地区部会

・生産～販売まで、産地運営における総合的な取組方針を決定
(取引協議会、運営員会 等)

JA鳥取西部若葉55会

※白ねぎ部会の55歳以下の若手生産者組織 作業場改善や腰痛対策の研修会 等



プラン策定検討委員会構成員

所属等	役職	氏名
JA鳥取西部白ねぎ部会	部会長	
〃	〃	
〃	〃	
〃	〃	
米子市弓浜地区白ねぎ産地新規就農者受入協議会	会員	
JA 鳥取西部若葉55会	会長	
〃	副会長	
JA 鳥取西部 営農部	次長	
〃 〃 特産園芸課	主任	
〃 〃 営農企画課(TAC担当)	職員	
〃 弓浜営農センター	センター長	
〃 〃	職員	
〃 〃	職員	
鳥取県白ねぎ改良協会(JA全農とっとり)	事務局長	
〃	職員	
(公財)鳥取県農業農村担い手育成機構米子本部	本部長	
〃	農地業務主幹	
米子市経済部農林水産振興局	局長	
〃 農林課	課長補佐	
〃	係長	
境港市産業部農政課	課長	
〃	係長	
鳥取県西部総合事務所農林局	局長	
〃 農林業振興課	課長補佐	
〃 〃	係長	
〃 西部農業改良普及所	次長	
〃 〃	副主幹	
〃 〃	改良普及員	
〃 〃	改良普及員	
〃 〃	改良普及員	
〃 〃	改良普及員	
〃 農林水産部園芸試験場弓浜砂丘地分場	分場長	

※HP 公開にあたって氏名は伏せています。

8. 支援事業の内容

区分	事業実施主体	事業内容 (事業量)	事業費	実施 予定年度
推進事業 (ソフト)	JA鳥取西部 白ねぎ生産部会	・白ねぎの学校の講師謝金	500千円	R6～R10
		・新規就農サポーター活動経費	500千円	
		・短期研修受入に係る経費	500千円	
		・弓浜白ねぎ奨励金制度	5,000千円	
		・機械・施設の賃借に係る経費	5,000千円	
		・輪作のための緑肥に係る経費	2,000千円	
		・レーザーレベラー、排水等施工委託経費	1,000千円	
		・重点防除病害への対策経費	5,000千円	
		・栽培実証試験	5,500千円	
		・共選場 DX 化及び稼働見直しに係る取組	5,000千円	
小計			30,000千円	
整備事業 (ハード)	JA鳥取西部 白ねぎ生産部会	・バックホー(2台)、排水ポンプ(50台)	10,000千円	R6～R10
		・収穫機(10台)	38,000千円	
		・収穫・調製作業の軽労化農具(20台)	2,000千円	
		・管理機(10台)、出荷調製機(10台)	10,000千円	
		・予冷库、空冷機(計10台)	10,000千円	
小計			70,000千円	
合計			100,000千円	

【資料13】プラン実現に向けた取組ロードマップ

【資料14】支援事業及び関連事業の内容(年次別計画)

9. 関連事業(既存の他事業で対応予定のもの)

事業名	事業内容	事業費	実施 予定年度
産地主体型就農支援モデル確立支援事業	遊休施設の共同作業場改修 他	5,000千円	R6～R10
農地耕作条件改善事業	基盤整備	—	R6～R10
機構中間保有地再生活用事業	遊休農地の復旧	6,000千円	R6～R10
園芸産地活力増進事業	共選場ストックヤード整備 他	40,000千円	R6～R10
鳥取県スマート農業実装総合支援事業	スマート農機(ドローン等)(3台)	9,000千円	R6～R10

10. 雇用の計画

なし

11. 対象地区の目指すべき姿(今後の弓浜地区白ねぎ産地発展に向けて)

今後の弓浜地区白ねぎ産地の発展に向けて、次の3点に取り組んでいきます。

一つ目は、品質の向上です。近年、他産地の品質レベルが上がってきています。一方で、当産地は営農や出荷の形態が多様化している影響で、品質にばらつきが生じており、市場評価の差がなくなりつつあります。生産者の技術や知識、品質に対する意識の向上を図ることで、市場、消費者に評価される白ねぎの生産を目指します。

二つ目は、販売価格の向上です。資材費や燃料費の高騰等の影響で、農家の経営はますます厳しく

なっています。そこで、ブランド化や品質の向上、試食宣伝等を通じた消費拡大運動を行うことで販売価格の向上につなげ、持続可能な儲かる農業を目指します。

三つ目は、生産者に対するアプローチです。産地の発展には農家数の維持、増加が不可欠です。そのため、新規就農者の獲得及び既存農家が農業を継続できるような取組を行います。具体的には、新規就農者獲得に向けたPR動画の作成や研修制度の拡充、地域に定着してもらえるための仲間づくりの場の提供等を行います。併せて、既存農家が営農を継続できるよう、作業の機械化推進や作業受委託を通じて作業負担の軽減を図ります。

これらの取組を通じて、若手農家や既存農家、行政、関係機関が連携し、産地が一体となって、白ねぎの更なる発展につなげていけるよう活動していきます。

なお、目標設定にあたり、JA 鳥取西部より面積、出荷量、単価等の資料を提供してもらったことから、本プランはJA 鳥取西部が推進のリーダーシップをとり、産地が一丸となって目標達成を目指します。